

## 2019 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本呼吸器学会

正式名称

呼吸器科医をめざす若手医師の育成と専門医の生涯教育

医学教育事業の概要

- ① 支部主催の若手医師育成セミナー（仮称）の開催
- ② 学会本部主催の若手医師育成セミナー（仮称）の開催
- ③ e-learning 受講システムの継続と更新

医学教育事業の対象者

主な医療関係者： 医師  歯科医師  薬剤師  看護師  
 その他（学生、大学院生）

対象となる医療関係者の想定人数： 10,740 人

内訳：セミナー支部開催 640 人（80 人 X 8 支部）

セミナー本部開催 100 人

e-learning 受講者延べ 10,000 人

医学教育事業の必要性 / 目的

高齢化に伴い呼吸器疾患は急増し続けているが、呼吸器科医は大きく不足しているため、医師の診療科偏在、地域偏在を解消していく必要性がある。そこで主に3つの事業に取り組み、臨床現場に必要な技能習得をめざす教育事業を展開する。

- ① 支部主催の若手医師育成セミナー（仮称）の開催  
全国の支部ごとに診療手技・機器操作を交えた実践的な教育を目的とする。
- ② 学会本部主催の若手医師育成セミナー（仮称）の開催  
若手医師が呼吸病態生理と診療手技や医療機器の原理について学ぶ機会を提供する。
- ③ e-learning 受講システムの継続と更新  
学術講演会やセミナーへの参加が困難な医師でも、新しい知識を習得できるシステム提供を目的とする。

医学教育事業の計画・方法等

若手医師向けのセミナーを、初期研修医が呼吸器診療や研究に興味を持つための呼吸器疾患の病態生理、治療や検査の原理、呼吸管理や救急対応などを含めたカリキュラムとして運営する。Web による学習システムでは、専門医取得や更新のための単位付与を目指していく。

**支部主催の若手医師育成セミナー（仮称）の開催**

本部主催のセミナーへの参加が困難な初期研修医に、全国8支部で参加を呼びかけ、地域ごとに実践力を身につける講習を行う。具体的には、呼吸機能検査や画像診断の判定能力向上をめざし、気管支鏡、胸腔穿刺・ドレナージ、気管内挿管、人工呼吸管理など専門的手技の習得により、呼吸器診療の魅力をアピールする。

① 学会本部主催の若手医師育成セミナー（仮称）の開催

呼吸器専門医取得をめざす医師を対象とした臨床呼吸機能講習会に併設して、特に初期研修医を対象とした若手医師育成セミナーを行う。座学のみでなく、手技や機器操作の実習も行うことで呼吸器診療の楽しさを実感してもらう。

セミナーでは、少人数のグループに分けたきめ細かい指導を行うとともに、呼吸器研修カリキュラムに基づいた幅広い基礎知識の習得ができるプログラムを準備する。

② e-learning 受講システムの継続と更新

専門医取得や更新への利用や、学会員の効果的な自己学習への利用をめざし、これまでの配信を継続するとともに、コンテンツを随時更新する。

医学教育事業の効果の測定方法

① 支部主催の若手医師育成セミナー、②学会本部主催の若手医師育成セミナー

受講生を対象としたアンケートにより、セミナーの成果がその後どのように活かされたかを調査する。結果に基づいて改善点を検討し、次年度の再計画を行う。

さらに、新規入会者数や新規の専門医取得者数の年次推移を随時確認する。

② e-learning 受講システムの継続と更新

e-learning 受講者を対象としたアンケート調査を実施する。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

学術講演会、各支部の地方会、臨床呼吸機能講習会において本事業の成果に関する報告を行う。その際、支部や本部が主催する若手医師を対象とした講習会の告知や e-learning コンテンツの紹介、呼吸器専門医の取得や更新への利用法を説明することで、継続した医学教育事業の展開へと繋げる。

参加が困難な医師に向けては、学会ホームページやニュースレターにて成果を発信し、多くの医師に本事業の成果を伝えていく。